

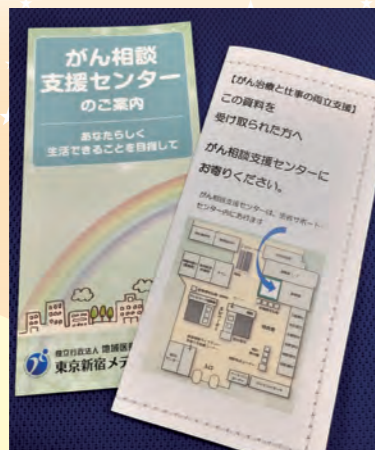
がん相談支援センターは、治療と仕事の両立支援を一緒に考えます

「もしもがんと診断されたら、治療を受けながら仕事を続けていくことはできるだろうか…」と心配になったことはありませんか？

がんと診断を受けて退職・廃業した人は、就業者の19.8%を占めており、そのうち初回治療までに退職・廃業した人は56.8%、再就職・復職の希望があっても無職の人は22.5%というデータがあります。(厚生労働省委託事業「平成30年度患者体験調査報告書」より)

がん治療を続けながら仕事を継続する人が増え、国・企業など関係機関が様々な取り組みを行うようになりました。

当院でも仕事を続けながら治療の継続ができるよう、サポートさせていただき取り組みを開始しています。



【がん治療と仕事の両立支援の流れ】

治療方針決定時の外来	主治医から【がん治療と仕事の両立支援】のパンフレット(写真参照)をお渡しし、「がん相談支援センター」にお寄りいただくよう話があります。
がん相談支援センター窓口	相談希望日(当日・次回外来日・別日・入院してからなど)を受付用紙にご記入いただけます。
がん相談支援センター担当者	ご記入いただいた希望日に、現在のお仕事の状況の確認を行います。利用できる制度、サービスの情報提供や会社への具体的な伝え方などのご相談をお受けします。
がん相談支援センター担当者	必要に応じて、継続面談を行います。

*外来を経由されずに緊急入院された場合などは、担当者(ソーシャルワーカー)が病室にお伺いします。

【がん治療と仕事の両立支援】のパンフレットを渡された方だけではなく、「副作用があって今までのように仕事ができない気がする。会社にどんな風に伝えたらよいのだろう…」と、すでに治療を継続しながら復職を考えて悩んでいる方なども、ぜひご相談ください。

患者さまが安心して治療の継続ができるよう、一緒に考えていきたいと思えます。

がん相談支援センター(患者サポートセンター内)
03-3269-8137(直通) 平日9:00~16:00



独立行政法人 地域医療機能推進機構
東京新宿メディカルセンター

発行: JCHO東京新宿メディカルセンター がん診療委員会
〒162-8543 東京都新宿区津久戸町5-1
電話 03-3269-8111 (代表) URL: <http://shinjuku.jcho.go.jp>



独立行政法人 地域医療機能推進機構
東京新宿メディカルセンター

がん診療情報誌

いきいきかぐらざか

れんげ草には「心が和らぐ、苦しみを和らげる」という花言葉があります。「みなさんが自分らしく過ごせるように」という意味をこめて情報誌を作成しております。

JCHO東京新宿メディカルセンター がん診療委員会



れんげ草

多岐にわたる呼吸器悪性腫瘍 (呼吸器外科の入院診療を再開します。)

呼吸器外科部長 岡本 淳一

7月1日付で、当院に赴任してまいりました外科の岡本です。呼吸器外科を担当させていただきます。2018年4月から常勤医不在であったことから、手術などの入院診療を停止しておりましたが2021年7月より再開することとなりました。どうぞよろしくお願い致します。

さて、一言で呼吸器外科と申しますと、皆様の最初のイメージは「肺がん」ではないでしょうか。

実際に日本の「最新がん統計(2019年)」によると、生涯で「がん」で死亡する確率は、男性26.7%(4人に1人)、女性17.8%(6人に1人)となっていますが、そのうち肺がんは、部位別がん罹患数は第3位で、死亡数では第1位(男性24.2%;1位、女性14.1%;2位)となっています。また発生率は50歳以上で急激に増加します。また、肺がんの全臨床病期における5年生存率は34.9%となっており、未だ、肺がんの予後は悪いといわざるを得ません。その肺がんの外科治療を行うのが当科であることは言うまでもありません。当院には呼吸器内科と放射線治療部があり、当科が診療再開したことにより、いわゆる「早期がん」~「進行肺がん」の治療を一貫として行うことができるようになりました。こと手術について申し上げますと、い



呼吸器外科部長
岡本 淳一

1999年 日本医科大学
医学部医学科 卒業
2007年 日本医科大学
大学院医学研究科 卒業
医学博士

<呼吸器外科担当医師>
日本呼吸器外科学会
呼吸器外科専門医・評議員
日本呼吸器学会
呼吸器専門医・指導医
日本外科学会
外科専門医・指導医
日本がん治療認定機構
がん治療認定医

外来日 月曜日(午前) 金曜日
手術日 水曜日

対象疾患
呼吸器外科一般
肺癌、転移性肺腫瘍、気胸・嚢胞性疾患、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜腫瘍、気管腫瘍 等

いわゆる標準手術とされる肺葉切除術では、胸腔鏡を用いた手術を行い、手術後3日から5日で退院されることが通常です。

それ以外に呼吸器外科の悪性腫瘍にはどのようなものがあるでしょうか?実は、絶対数としては少ないのですが、胸腺腫・胸腺癌を含めた縦隔悪性腫瘍があります。また極めて悪性度の高い悪性胸膜中皮腫なども呼吸器悪性腫瘍の一つです。さらに、縦隔腫瘍に関連して、悪性リンパ腫が縦隔に発生することもあり、当科での検査や治療後に血液内科へのバトンタッチを行うような疾患も存在します。



写真1

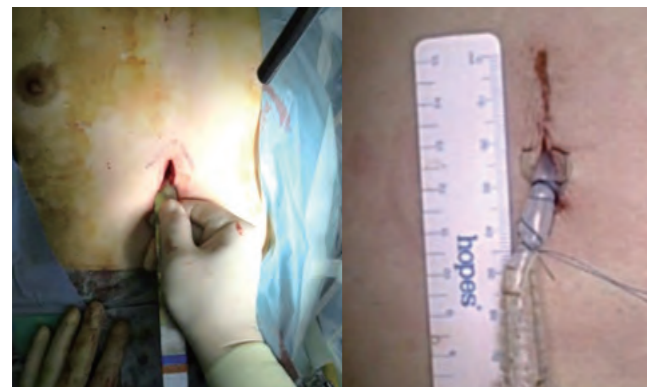


写真2

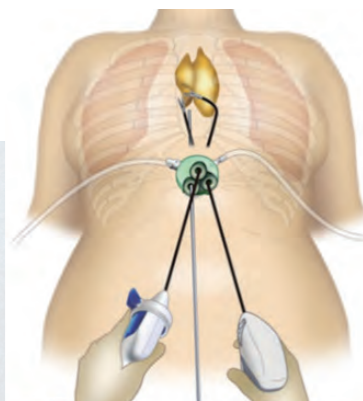


図1

写真1は従前のアプローチである胸骨正中切開（筆者撮影:日本医科大学武蔵小杉病院提供）で

す。今回、縦隔腫瘍の一つである胸腺腫の比較的小さなものには胸骨剣状突起下アプローチ完全鏡視下単孔式胸腺-胸腺腫瘍摘出術を導入します（写真2（筆者撮影:日本医科大学武蔵小杉病院提供）と図1:藤田医科大学 呼吸器外科 須田先生御提供）。約3cmの傷が丁度、“みぞおち（胸骨剣状突起下）”にできるだけ手術が完結します。従来の胸骨正中切開アプローチ手術では前胸部に大きな傷痕が残ってしまい、水着を着るのに抵抗があるような状況になる方がいます。しかも、胸骨を割ると痛みがしばらく続き、術後の運動制限がしばらく続きます。単孔式手術では、その様な痛みや傷痕が小さくなるうえで、術後の患者さんの負担を減らす手術です。患者さんへの一つの選択肢として、提案させていただきます。

最後に、この様に多岐に渡る呼吸器悪性腫瘍治療に対し、必要に応じて当院内で連携し対処していく所存です。治療に当たっては、いわゆるガイドラインに記載されているだけの治療を機械的に行うのではなく、治療を受けられる皆様の生活環境、体力、目的などを見ながら、ご本人のニーズに併せて術式等、治療方針を決めてまいります。

また、診療部門としては1人体制であることがご心配の方もいらっしゃるかもしれません。しかし当科は外科の一部門であり、他の外科医のバックアップもしっかりしております。また、呼吸器内科など関連科のバックアップも受けられる体制です。まずはお気軽にご相談ください。

外来化学療法と薬剤師の関わり

薬剤部 塩田 朋子

近年、抗がん剤の治療（化学療法）は、多くの場合外来通院で行われるようになってきています。それに伴って、患者さまがご自宅で抗がん剤を服用したり、副作用に対処しなければならない状況もあり、がん薬物治療を安全に効果的に行い、通院での治療を支えるため、薬剤師の介入が求められています。

当院では、2名の薬剤師を外来化学療法室に配置し、患者さまへの治療内容の説明、治療中の生活指導、副作用モニタリング、副作用対策などがかかわらせていただいております。外来がん化学療法のさらなる質向上を目指し、2021年7月より外来化学療法室で化学療法を実施される患者さまを対象に、地域医療連携強化へ向けた取り組みを開始しましたので今回ご報告させていただきます。

令和2年度診療報酬改定では、地域の医療機関、保険薬局との連携体制の整備をし、地域全体で化学療法を受けられる患者さまのサポートをす

る事が求められています。外来化学療法室担当薬剤師より、がん化学療法の内容や実施状況、副作用の発現状況を記載した「外来化学療法報告書」を封書にて患者さまへお渡しし、保険薬局へ提出していただくことによって、医療機関と保険薬局薬剤師との間で情報の共有化をします。また、保険薬局から次回受診時までの患者さまの状況の報告をいただくことによって、副作用等に対するより細やかな対応ができ、まさに双方向からの支援が可能となるわけです。

さらに、定期的に地域の保険薬局と研修会を開催し、当院で実施している化学療法にご理解いただき、互いに化学療法に対する知識向上の研鑽に努めています。

化学療法を受けられる際、副作用などの様々な不安があると思います。患者さまが安心して通院治療を受けることができるよう、薬剤師も尽力していきたいと思っています。お気軽にお声かけ下さい。

